

地図が生まれるまで

地図は、測量用の航空機により空から真下を撮影した空中写真を用いて作られます。隣接する写真と重なるように撮影すると、図化作業の際に地上を立体的に見ることができるようになります。

空から地上を撮影します。



空中写真撮影



機内の様子

空中写真だけでは読み取ることが難しいもの（建物の種類、塀や石垣などの構造物、植生等）は、実際に現地に行って調査します。



道路の幅を測ったりもします。

現地調査



重ねて撮った空中写真を特殊なコンピュータ上に表示すると、写真を立体的に見ることができます。そうすることによって、高さの計測が可能となり、道路や建物、等高線などを描くことができます。



図化

写真をなぞるイメージです。



図化したデータに情報（道路や鉄道の種別など）を加えて、そのデータが何を示しているのかを明確にします。また、地図記号や注記（〇〇市など）を加えて、分かりやすい地図にしていきます。



目が疲れるなあ

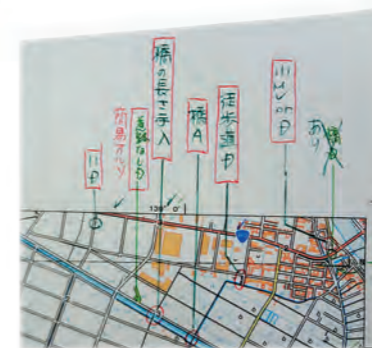


編集

この道は高速道路ですね。



作成した地図を印刷し、表現に誤りがないかを確認します。一枚一枚人の目で確認し、修正が必要な地図は正しい表現に直し、再度点検します。



点検

地名と記号が重なっているぞ。



2万5千分1地形図や20万分1地勢図など様々な縮尺の地図として公表されます。



公表

完成ー！



新鮮な地図をより早く提供するために

ここで紹介した地図作成手法のほかに、道路などの整備者・管理者から提供される工事図面等を基にした、より効率的な地図作成も行っています。

新しい道路の工事図面を事前に提供してもらい、道路の開通日と同時に地図情報を更新・公表することによって、常に新鮮な地図を提供できます。



工事図面



工事図面を基に更新した地図